

令和 8 年 7 月 1 7 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

滋賀県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
米原市立山東小学校	米原市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
米原市立山東小学校	https://santo-e-maibara.edumap.jp/page_20220424031501

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
米原市 立山東 小学校	https://santo-e-maibara.edumap.jp/page_20220424031501	https://santo-e-maibara.edumap.jp/page_20220424031501

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

⊙計画通り実施できている
・一部、計画通り実施できていない
・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

⊙実施している

・実施していない

<特記事項>

特別の教育課程については、PTA 総会や学校運営協議会等で説明を行い、理解を得るとともに協力をお願いしている。本校の校区は外国籍の方が少なく、児童は英語や文化に触れ合う機会が少ない。特別の教育課程を編成して学習を行うことで、児童が英語や外国の文化に対する興味・関心を高めることができるため、貴重な機会となっている。

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

目標として「英語に慣れ親しむ活動を通じて、英語を身近に感じ、英語や外国の文化に対する興味・関心を深め、コミュニケーションのツールの一つとして、英語で尋ねたり、伝え合ったりできるようにする。」を設定している。英語科の授業を3年生から実施することで、児童は英語をより身近に感じることができている。また、本校では、6年生の児童が「米原 PR 活動」として米原の魅力を県内外の方に発信する活動を行っている。その中では、外国の方を相手に PR 活動をする機会もある。英語活用のゴールとして、英語で尋ねたり伝え合ったりできているため、一定目標が達成できたと考えている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校では「夢を抱き 心豊かに たくましく生きる子」を学校教育目標に、子どもたちが自分でつかむ自分の未来として、自ら夢や志をつかむ力の育成を目指している。手立ての一つとして、子どもたちが自分のよさ・成長・可能性を実感できる場面を設定している。6年生の PR 活動では、英語を実際に活用してコミュニケーションを図ることで成長を実感するとともに、自分の将来について考え直す機会にもなっている。ただし、校区に外国籍の方が少ないこともあり、6年生までの間に英語を活用する機会が限られている。そのため、児童が学びを実感できる機会が少ないことが課題となっている。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度から、児童が学習成果を発表する学習参観日を新たに設けた。その中では、英語科の授業の成果を発表する学級もある。また、市で開催される「米原市 English Oratorical Performance Meet」への出場を勧め、児童が英語学習の成果を発表できるようにする。英語を活用できる機会を保障することで、児童の英語への意欲をさらに高めたいと考えている。